

＜台北 2009 日本選手団の編成にかかる指針＞
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会
2007 年 10 月 27 日策定

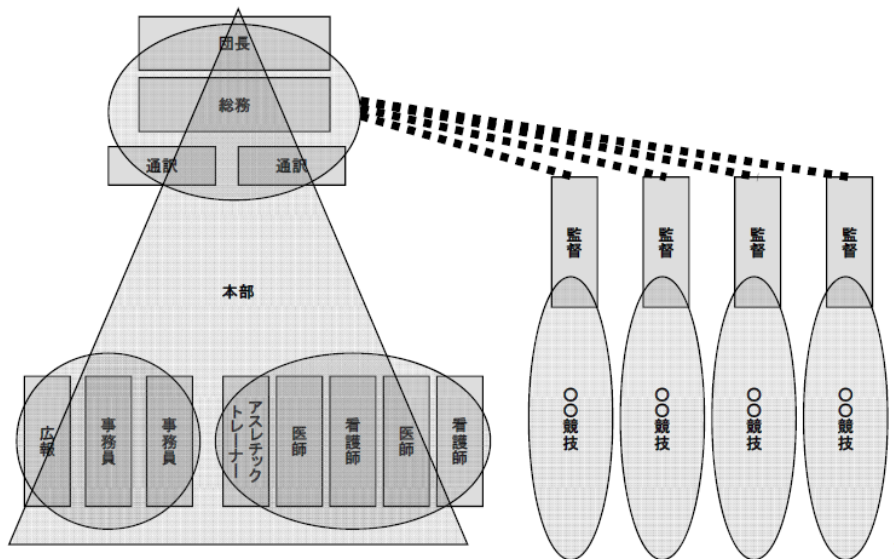
はじめに

第 21 回デフリンピック夏季大会（台北 2009）に、
(1)高水準の競技に適切な準備ができていない競技者のみを派遣し、
(2)競技者が持つ能力を最大限に引き出す環境を整えるために、
スポーツ委員会は日本選手団編成にかかる指針をここに策定し、全日本ろうあ連盟 2007 年度第 3 回理事会報告後の 11 月 19 日に発表する。この指針は全日本ろうあ連盟が立ち上げる予定の派遣委員会にあらためて報告されるほか、国民に広く公開されるものである。
各競技団体はこの指針をもとに台北 2009 でメダルを競えるための選手強化及びチーム編成準備を行う。

選手団編成について

従来は団長、総監督、事務局長を置いてきたが、競技上の様々な対応を迅速に行う指示系統の観点から、今回は、団長と総監督を同一人物が務めることとし、総監督は廃止、事務局長を総務に変更する。
団長の任務は全日本ろうあ連盟の設ける派遣委員会によって委託された職務に加えて、国際ろうあ者スポーツ委員会(ICSD)事務局、デフリンピック組織委員会(DCOC)事務局との連絡調整を行うことになる。
なお、日本選手団と別途にスポーツ委員会代表が ICSD 総会への出席を目的として派遣されるべきであり、この代表は日本選手団を監督する立場におかれる。

日本選手団組織図



総務：団長の指示を受けて本部を統括する。

通訳：団長付きとして英語及び手話通訳を交替で行う。

広報：選手団の広報を統括し、メディアへの対応を行う。

事務員：デフリンピック組織委員会との連絡・調整を行って選手団滞在にかかる事務を行う。英語上級レベルが求められる。

アスレチックトレーナー：医師・看護師と連携して、選手の体調管理に関して各競技チーム（のトレーナー）にアドバイスを行う。手話上級レベルが求められる。

医師：アスレチックトレーナー・看護師と連携して、医療処置及び予防を行うほか、アンチドーピング管理に関して各競技チームにアドバイスを行う。手話上級レベルが求められる。

看護師：医師と連携して、医療処置及び予防を行う。選手と直接意思疎通を図り、医師と選手の意思疎通を支援するために、手話通訳士・者資格の所持が求められる。

監督：団長と連携して各競技チームの統括を行う。各競技 TD 等との連絡調整・チームメンバーへの指導も含む。

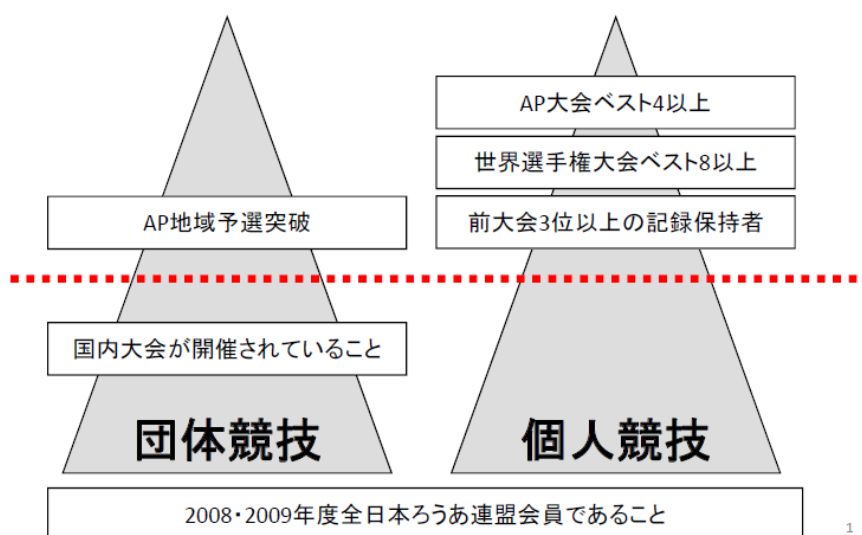
選手推薦基準について

高水準の競技に適切な準備ができていて、メダルの可能性がある競技者のみを「台北 2009」に日本代表として派遣するために、各競技団体は次に示す推薦基準に基づいて選手の推薦を行う。スタッフについては基準を特に設けない。

各競技団体は推薦する選手・スタッフがデフリンピックの精神及び世界アンチ・ドーピング規定について十分に認識しこれに従って日本選手団団員として行動することを保証しなければならない。

聴覚障害を持つ日本選手団団員は少なくとも 2008・2009 年度において全日本ろうあ連盟会員でなければならない。

選手推薦基準(全体)



サッカー競技

男子はクウェート 2008 で開催される地域予選を突破すること

女子は本選出場がほぼ決定しているが、2008 年度中に国内で少なくとも 3 チーム以上による大会が実施され、その結果による全国からの選抜チームであること

両方とも、チームメンバー選出は日本ろう者サッカー協会の定めるところによる。

バレーボール競技

男子・女子ともに本選出場がほぼ決定しているが、2008年度中に国内で少なくとも4チーム以上による大会が実施され、その結果による全国からの選抜チームであること

両方とも、チームメンバー選出は日本ろうあバレーボール協会の定めるところによる。

バスケットボール競技

男子・女子ともに本選出場がほぼ決定しているが、2008年度中に国内で少なくとも4チーム以上による大会が実施され、その結果による全国からの選抜チームであること

両方とも、チームメンバー選出は日本聴覚障害者バスケットボール協会の定めるところによる。

卓球競技

クウェート2008でベスト4の選手

2008年7月の世界選手権大会でベスト8の選手

上記選手を日本ろうあ卓球協会の管理する2008年度ランキングで上回る選手

陸上競技

2008年9月の世界選手権大会で決勝進出の選手

上記大会8位記録又はメルボルン2005大会の3位記録を超える公認記録を2008年9月から2009年5月までの間に出した選手

オリエンテーリング競技

国内普及が重要課題である現状では推薦の見込みがない。

ただし、ICSDのTDから、完走できるレベルでも若手を派遣していただきたいという要請があることに留意する。

テニス競技

2008年アジアパシフィックオープンベスト4の選手

上記選手をICSDテニスTDの定める2008年度ランキングで上回る選手

ビーチバレーボール競技

2008年度もしくは2009年度初めまでに国内で8ペア以上による大会を実施し、その大会で優勝したペア

バドミントン競技

2007年9月の世界選手権大会ベスト8の選手

上記選手を日本ろう者バドミントン協会の管理する2008年度ランキングで上回る選手

水泳競技

2007年8月の世界選手権大会6位以上の選手

上記大会6位記録を超える公認記録をクウェート2008など2008年度中に出した選手

ボウリング競技

2008年開催予定の世界選手権大会で8位以上の選手
上記選手を日本ろうあ者ボウリング協会の管理する2008年度ランキングなどで超える選手

空手競技

2008年5月の世界選手権大会でベスト8の選手

テコンドー競技

2008年5月の世界選手権大会でベスト8の選手

柔道競技

2008年5月の世界選手権大会でベスト8の選手

各競技チームのスタッフ

デフリンピックで定める各競技につき最低1名のスタッフを保証する。

選手4名毎に1名のスタッフを保障する。(バスケットボールの場合は、1名+6名の7名となる)

スタッフにどの役割を振るかは各競技チームが決定する。

ただし、監督・トレーナーは必ず置くこと。

保証人数を超えるスタッフの配置は自由とするが、各競技協会が経費を負担することとする。

以上